

電子書籍版

温泉 全45巻+別巻1

【総監修】一般社団法人 日本温泉協会 【監修】内田 彩 東洋大学国際観光学部准教授

●同時1アクセス：本体予価 1,554,300円+税 ●同時3アクセス：本体予価 3,108,600円+税

★電子書籍版はKindoDen / Maruzen eBook Libraryのサービスでご購入いただけます。

第1回記念・全6巻 2026年7月刊行予定

【同時1アクセス】本体価格 180,400円 【同時3アクセス】本体価格 360,800円

- 1 ●第1巻第1号～第1巻第9号 (1930年(昭和5)4月～12月)
【同時1アクセス】本体価格 17,600円 【同時3アクセス】本体価格 35,200円
- 2 ●第2巻第1号～第2巻第6号 (1931年(昭和6)1月～6月)
【同時1アクセス】本体価格 33,000円 【同時3アクセス】本体価格 66,000円
- 3 ●第2巻第7号～第2巻第12号 (1931年(昭和6)7月～12月)
【同時1アクセス】本体価格 41,800円 【同時3アクセス】本体価格 83,600円
- 4 ●第3巻第1号～第3巻第4号 (1932年(昭和7)1月～4月)
【同時1アクセス】本体価格 26,400円 【同時3アクセス】本体価格 52,800円
- 5 ●第3巻第5号～第3巻第8号 (1932年(昭和7)5月～8月)
【同時1アクセス】本体価格 28,600円 【同時3アクセス】本体価格 57,200円
- 6 ●第3巻第9号～第3巻第12号 (1932年(昭和7)9月～12月)
【同時1アクセス】本体価格 33,000円 【同時3アクセス】本体価格 66,000円

第2回記念・全5巻 2026年12月刊行予定

【同時1アクセス】本体予価 176,000円 【同時3アクセス】本体予価 352,000円

- 7 ●第4巻第1号～第4巻第4号 (1933年(昭和8)1月～4月)
【同時1アクセス】本体予価 33,000円 【同時3アクセス】本体予価 66,000円
- 8 ●第4巻第5号～第4巻第8号 (1933年(昭和8)5月～8月)
【同時1アクセス】本体予価 37,400円 【同時3アクセス】本体予価 74,800円
- 9 ●第4巻第9号～第4巻第12号 (1933年(昭和8)9月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 39,600円 【同時3アクセス】本体予価 79,200円
- 10 ●第5巻第1号～第5巻第3号 (1934年(昭和9)1月～3月)
【同時1アクセス】本体予価 33,000円 【同時3アクセス】本体予価 66,000円
- 11 ●第5巻第4号～第5巻第6号 (1934年(昭和9)4月～6月)
【同時1アクセス】本体予価 33,000円 【同時3アクセス】本体予価 66,000円

第3回記念・全6巻 2027年7月刊行予定

【同時1アクセス】本体予価 222,200円 【同時3アクセス】本体予価 444,400円

- 12 ●第5巻第7号～第5巻第9号 (1934年(昭和9)7月～9月)
【同時1アクセス】本体予価 39,600円 【同時3アクセス】本体予価 79,200円
- 13 ●第5巻第10号～第5巻第12号 (1934年(昭和9)10月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 33,000円 【同時3アクセス】本体予価 66,000円
- 14 ●第6巻第1号～第6巻第3号 (1935年(昭和10)1月～3月)
【同時1アクセス】本体予価 33,000円 【同時3アクセス】本体予価 66,000円
- 15 ●第6巻第4号～第6巻第6号 (1935年(昭和10)4月～6月)
【同時1アクセス】本体予価 35,200円 【同時3アクセス】本体予価 70,400円
- 16 ●第6巻第7号～第6巻第9号 (1935年(昭和10)7月～9月)
【同時1アクセス】本体予価 39,600円 【同時3アクセス】本体予価 79,200円
- 17 ●第6巻第10号～第6巻第12号 (1935年(昭和10)10月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 41,800円 【同時3アクセス】本体予価 83,600円

第4回記念・全6巻 2027年12月刊行予定

【同時1アクセス】本体予価 231,000円 【同時3アクセス】本体予価 462,000円

- 18 ●第7巻第1号～第7巻第3号 (1936年(昭和11)1月～3月)
【同時1アクセス】本体予価 41,800円 【同時3アクセス】本体予価 83,600円
- 19 ●第7巻第4号～第7巻第6号 (1936年(昭和11)4月～6月)
【同時1アクセス】本体予価 35,200円 【同時3アクセス】本体予価 70,400円
- 20 ●第7巻第7号～第7巻第9号 (1936年(昭和11)7月～9月)
【同時1アクセス】本体予価 37,400円 【同時3アクセス】本体予価 74,800円
- 21 ●第7巻第10号～第7巻第12号 (1936年(昭和11)10月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 39,600円 【同時3アクセス】本体予価 79,200円
- 22 ●第8巻第1号～第8巻第3号 (1937年(昭和12)1月～3月)
【同時1アクセス】本体予価 39,600円 【同時3アクセス】本体予価 79,200円
- 23 ●第8巻第4号～第8巻第6号 (1937年(昭和12)4月～6月)
【同時1アクセス】本体予価 37,400円 【同時3アクセス】本体予価 74,800円

第5回記念・全6巻 2028年7月刊行予定

【同時1アクセス】本体予価 213,400円 【同時3アクセス】本体予価 426,800円

- 24 ●第8巻第7号～第8巻第9号 (1937年(昭和12)7月～9月)
【同時1アクセス】本体予価 37,400円 【同時3アクセス】本体予価 74,800円
- 25 ●第8巻第10号～第8巻第12号 (1937年(昭和12)10月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 35,200円 【同時3アクセス】本体予価 70,400円
- 26 ●第9巻第1号～第9巻第3号 (1938年(昭和13)1月～3月)
【同時1アクセス】本体予価 37,400円 【同時3アクセス】本体予価 74,800円
- 27 ●第9巻第4号～第9巻第6号 (1938年(昭和13)4月～6月)
【同時1アクセス】本体予価 35,200円 【同時3アクセス】本体予価 70,400円
- 28 ●第9巻第7号～第9巻第9号 (1938年(昭和13)7月～9月)
【同時1アクセス】本体予価 35,200円 【同時3アクセス】本体予価 70,400円
- 29 ●第9巻第10号～第9巻第12号 (1938年(昭和13)10月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 33,000円 【同時3アクセス】本体予価 66,000円

第6回記念・全6巻 2028年12月刊行予定

【同時1アクセス】本体予価 215,600円 【同時3アクセス】本体予価 431,200円

- 30 ●第10巻第1号～第10巻第3号 (1939年(昭和14)1月～3月)
【同時1アクセス】本体予価 35,200円 【同時3アクセス】本体予価 70,400円
- 31 ●第10巻第4号～第10巻第6号 (1939年(昭和14)4月～6月)
【同時1アクセス】本体予価 33,000円 【同時3アクセス】本体予価 66,000円
- 32 ●第10巻第7号～第10巻第9号 (1939年(昭和14)7月～9月)
【同時1アクセス】本体予価 37,400円 【同時3アクセス】本体予価 74,800円
- 33 ●第10巻第10号～第10巻第12号 (1939年(昭和14)10月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 37,400円 【同時3アクセス】本体予価 74,800円
- 34 ●第11巻第1号～第11巻第3号 (1940年(昭和15)1月～3月)
【同時1アクセス】本体予価 37,400円 【同時3アクセス】本体予価 74,800円
- 35 ●第11巻第4号～第11巻第6号 (1940年(昭和15)4月～6月)
【同時1アクセス】本体予価 35,200円 【同時3アクセス】本体予価 70,400円

第7回記念・全5巻 2029年7月刊行予定

【同時1アクセス】本体予価 160,600円 【同時3アクセス】本体予価 321,200円

- 36 ●第11巻第7号～第11巻第9号 (1940年(昭和15)7月～9月)
【同時1アクセス】本体予価 35,200円 【同時3アクセス】本体予価 70,400円
- 37 ●第11巻第10号～第11巻第12号 (1940年(昭和15)10月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 28,600円 【同時3アクセス】本体予価 57,200円
- 38 ●第12巻第1号～第12巻第4号 (1941年(昭和16)1月～4月)
【同時1アクセス】本体予価 33,000円 【同時3アクセス】本体予価 66,000円
- 39 ●第12巻第5号～第12巻第8号 (1941年(昭和16)5月～8月)
【同時1アクセス】本体予価 33,000円 【同時3アクセス】本体予価 66,000円
- 40 ●第12巻第9号～第12巻第12号 (1941年(昭和16)9月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 30,800円 【同時3アクセス】本体予価 61,600円

第8回記念・全5巻+別巻1 2029年12月刊行予定

【同時1アクセス】本体予価 155,100円 【同時3アクセス】本体予価 310,200円

- 41 ●第13巻第1号～第13巻第4号 (1942年(昭和17)1月～4月)
【同時1アクセス】本体予価 26,400円 【同時3アクセス】本体予価 52,800円
- 42 ●第13巻第5号～第13巻第8号 (1942年(昭和17)5月～8月)
【同時1アクセス】本体予価 28,600円 【同時3アクセス】本体予価 57,200円
- 43 ●第13巻第9号～第13巻第12号 (1942年(昭和17)9月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 28,600円 【同時3アクセス】本体予価 57,200円
- 44 ●第14巻第1号～第14巻第5号 (1943年(昭和18)1月～5月)
【同時1アクセス】本体予価 28,600円 【同時3アクセス】本体予価 57,200円
- 45 ●第14巻第6号～第14巻第12号 (1943年(昭和18)6月～12月)
【同時1アクセス】本体予価 26,400円 【同時3アクセス】本体予価 52,800円

別巻●解題・総目次

【同時1アクセス】本体予価 16,500円 【同時3アクセス】本体予価 33,000円

温泉 全45巻+別巻1

【総監修】一般社団法人 日本温泉協会 【監修】内田 彩 東洋大学国際観光学部准教授

●揃予価：本体 1,413,000円+税 ISBN978-4-8433-7236-4 C3326 A5判上製/カバー ※電子書籍版につきましては中面をご覧ください

第1回記念・全6巻 2026年5月刊行予定

揃予価：本体 164,000円+税 ISBN978-4-8433-7237-1 C3326

- 1 ●第1巻第1号～第1巻第9号 (1930年(昭和5)4月～12月)
定価：本体 16,000円+税 ISBN978-4-8433-7238-8 C3326
- 2 ●第2巻第1号～第2巻第6号 (1931年(昭和6)1月～6月)
定価：本体 30,000円+税 ISBN978-4-8433-7239-5 C3326
- 3 ●第2巻第7号～第2巻第12号 (1931年(昭和6)7月～12月)
定価：本体 38,000円+税 ISBN978-4-8433-7240-1 C3326
- 4 ●第3巻第1号～第3巻第4号 (1932年(昭和7)1月～4月)
定価：本体 24,000円+税 ISBN978-4-8433-7241-8 C3326
- 5 ●第3巻第5号～第3巻第8号 (1932年(昭和7)5月～8月)
定価：本体 26,000円+税 ISBN978-4-8433-7242-5 C3326
- 6 ●第3巻第9号～第3巻第12号 (1932年(昭和7)9月～12月)
定価：本体 30,000円+税 ISBN978-4-8433-7243-2 C3326

第2回記念・全5巻 2026年10月刊行予定

揃予価：本体 160,000円+税 ISBN978-4-8433-7244-9 C3326

- 7 ●第4巻第1号～第4巻第4号 (1933年(昭和8)1月～4月)
予価：本体 30,000円+税 ISBN978-4-8433-7245-6 C3326
- 8 ●第4巻第5号～第4巻第8号 (1933年(昭和8)5月～8月)
予価：本体 34,000円+税 ISBN978-4-8433-7246-3 C3326
- 9 ●第4巻第9号～第4巻第12号 (1933年(昭和8)9月～12月)
予価：本体 36,000円+税 ISBN978-4-8433-7247-0 C3326
- 10 ●第5巻第1号～第5巻第3号 (1934年(昭和9)1月～3月)
予価：本体 30,000円+税 ISBN978-4-8433-7248-7 C3326
- 11 ●第5巻第4号～第5巻第6号 (1934年(昭和9)4月～6月)
予価：本体 30,000円+税 ISBN978-4-8433-7249-4 C3326

第3回記念・全6巻 2027年5月刊行予定

揃予価：本体 202,000円+税 ISBN978-4-8433-7250-0 C3326

- 12 ●第5巻第7号～第5巻第9号 (1934年(昭和9)7月～9月)
予価：本体 36,000円+税 ISBN978-4-8433-7251-7 C3326
- 13 ●第5巻第10号～第5巻第12号 (1934年(昭和9)10月～12月)
予価：本体 30,000円+税 ISBN978-4-8433-7252-4 C3326
- 14 ●第6巻第1号～第6巻第3号 (1935年(昭和10)1月～3月)
予価：本体 30,000円+税 ISBN978-4-8433-7253-1 C3326
- 15 ●第6巻第4号～第6巻第6号 (1935年(昭和10)4月～6月)
予価：本体 32,000円+税 ISBN978-4-8433-7254-8 C3326
- 16 ●第6巻第7号～第6巻第9号 (1935年(昭和10)7月～9月)
予価：本体 36,000円+税 ISBN978-4-8433-7255-5 C3326
- 17 ●第6巻第10号～第6巻第12号 (1935年(昭和10)10月～12月)
予価：本体 38,000円+税 ISBN978-4-8433-7256-2 C3326

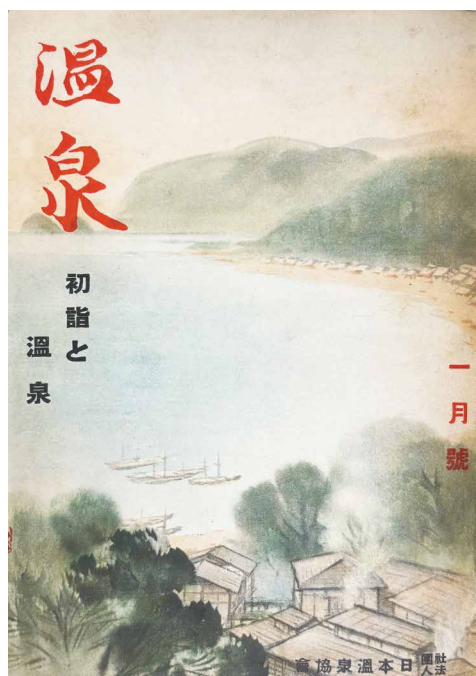
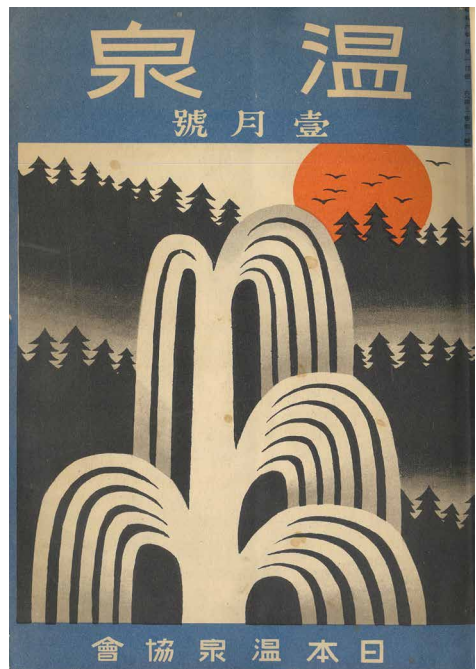
第4回記念・全6巻 2027年10月刊行予定

揃予価：本体 210,000円+税 ISBN978-4-8433-7257-9 C3326

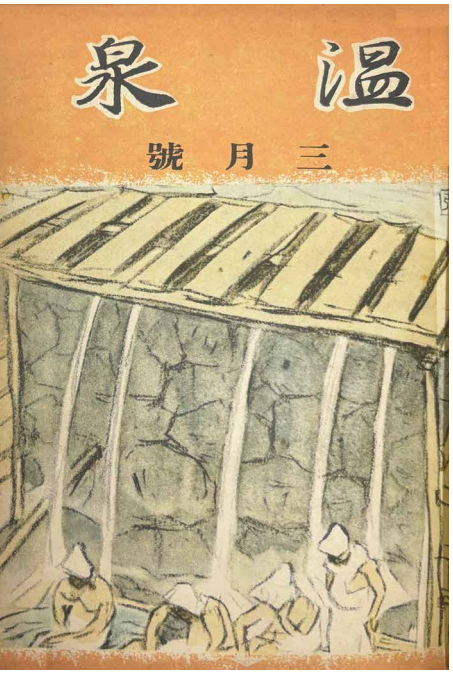
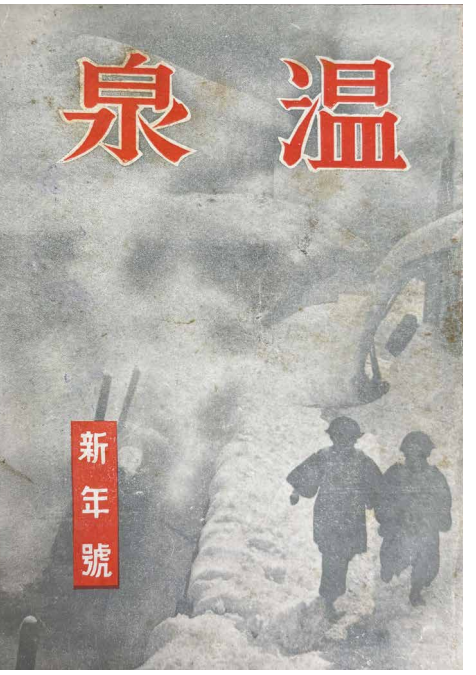
- 18 ●第7巻第1号～第7巻第3号 (1936年(昭和11)1月～3月)
予価：本体 38,000円+税 ISBN978-4-8433-7258-6 C3326
- 19 ●第7巻第4号～第7巻第6号 (1936年(昭和11)4月～6月)
予価：本体 32,000円+税 ISBN978-4-8433-7259-3 C3326
- 20 ●第7巻第7号～第7巻第9号 (1936年(昭和11)7月～9月)
予価：本体 34,000円+税 ISBN978-4-8433-7260-9 C3326
- 21 ●第7巻第10号～第7巻第12号 (1936年(昭和11)10月～12月)
予価：本体 36,000円+税 ISBN978-4-8433-7261-6 C3326
- 22 ●第8巻第1号～第8巻第3号 (1937年(昭和12)1月～3月)
予価：本体 36,000円+税 ISBN978-4-8433-7262-3 C3326
- 23 ●第8巻第4号～第8巻第6号 (1937年(昭和12)4月～6月)
予価：本体 34,000円+税 ISBN978-4-8433-7263-0 C3326

ゆまに書房 〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-7-6 TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493 https://www.yumani.co.jp

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491 / Fax.03(5296)0493 年 月 日		取 扱 店
温泉 全45巻+別巻1 <input type="checkbox"/> 第1回・全6巻 <input type="checkbox"/> 第2回・全5巻 <input type="checkbox"/> 第3回・全6巻 <input type="checkbox"/> 第4回・全6巻 <input type="checkbox"/> 第5回・全6巻 <input type="checkbox"/> 第6回・全6巻 <input type="checkbox"/> 第7回・全5巻 <input type="checkbox"/> 第8回・全6巻		
ご注文書	お名前	セツト
	ご住所	
	TEL ()	



現在も続く、日本温泉協会刊行の雑誌『温泉』。一九三〇（昭和五）年四月刊行の創刊号より一九四三（昭和一八）年三月までの戦前部分を復刻。近代日本における豊富な温泉文化を詳細に記した第一級資料。



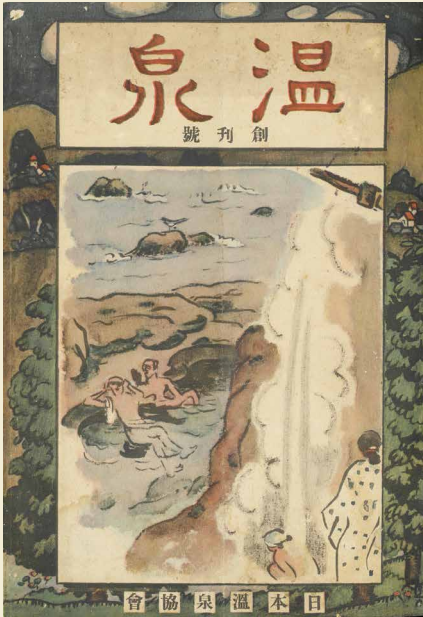
【総監修】一般社団法人 日本温泉協会

温泉

●監修● 内田 彩 東洋大学国際観光学部准教授

全45巻 +別巻1

◎プリント版 2026年5月刊行開始予定 ◎電子書籍版 2026年7月刊行開始予定



内田 彩

刊行のことば

日本における温泉の歴史は長く、古代の地誌である『出雲国風土記』意宇郡には、老若男女が温泉を求めて集い、ひとたび入浴すれば容姿が端正になり、再び入浴すれば万病が癒える。それゆえ、土地の人々はそこを「神の湯」と呼んだと記されている。古代からの癒しの湯は、近世には湯治場として栄え、近代には療養から保養へ、そして現代では観光の場へとその役割を変化させてきた。こうした歩みのなかで育まれた「温泉文化」は、2025年にユネスコ無形文化遺産への国内提案候補に決定し、今まさに注目を集めている。

今回復刻される『温泉』は、昭和4年(1929)に設立された「日本温泉協会」が、翌昭和5年(1930)より刊行した機関雑誌である。日本温泉協会は、内務省、鉄道省、ジャパン・ツーリスト・ビューロー、研究者、そして各地の温泉事業者が中心となって設立された半官半民の団体であった。創刊号の「日本温泉協会創設の趣旨」では、「其の湧泉の保護開発、医学的療法、或は浴客待遇等の施設に於きまして遺憾ながらまだ研究の余地ある」と述べ、温泉資源の保護、温泉治療や温泉地開発のために助言する機関の必要性を訴えている。創設者たちが、温泉資源の適正な利用と健全な温泉地の発展、そして温泉医学の進歩を志していたことがわかる。

その誌面を紐解くと、創刊号では東京帝国大学教授の脇水鉄五郎が地質学の見地から温泉を説明し、英字新聞ジャパンタイムズ主幹の芝染太郎や鉄道省国際課長の田誠が外客誘致の重要性を指摘している。さらに、医学博士の藤浪剛一がドイツの温泉医学の発展を論じるなど、科学的知見から温泉を読み解く一方で、国際的な視野で日本の温泉を捉えようと試みていた。昭和8年(1933)に設置された学術部委員会には、医学の西川義方、藤浪剛一、法学の杉山直治郎、清水澄、美濃部達吉、さらには林学の本多静六など、後世の温泉研究に影響を与える研究者が名を連ねている。温泉を学際的に究めようとした視点は、今日の温泉研究にも多大な示唆を与えてくれるだろう。本誌は戦時中の休刊期を除き、今日に至るまで発刊を続けており、温泉および温泉地の変遷を辿るうえで貴重な資料となっている。

このたびの復刻は、日本温泉協会に保存されていた全巻の提供を受けて実現した。機関雑誌という性質に加え、戦禍を経たこともあり、欠けることなく資料を揃えていたのは同協会のみであった。これまで限られた関係者しか閲覧し得なかったこの貴重な資料が、温泉が重要な文化資源として再評価される今日において復刻される意義は大きい。本復刻シリーズが完結する2029年、日本温泉協会は100周年を迎える。温泉の位置づけが大きく変化した100年の歴史において、特に資料の乏しかった昭和前期の諸相を多角的に論じた『温泉』の復刻は、今後の温泉研究の発展に大きく寄与するに違いない。

(東洋大学国際観光学部准教授)

目次から

● 1930 (昭和5) 年 4 月 第 1 卷第 1 号 (創刊号)

「日本温泉協会創立の趣旨」/「温泉と地質」脇水鉄五郎/「温泉の設備と宣伝」芝染太郎/「外客誘致と温泉」田城/「如何にして独逸の温泉治療法は進歩せしや」藤浪剛一/「鑿井に就て」小林儀一郎/「独逸に於ける温泉発達」酒井谷平/「福島県下に於ける温泉の概況」渡辺秋沙/ほか

● 1931 (昭和6) 年 12 月 第 2 卷第 12 号

「温泉開発に伴ふ工学的諸施設」宮城音五郎/「外人より見たる日本旅館の衛生施設」国際観光局/「旅館物語」山野旅四郎/「上代における伊豆」/「時代的な三等寢室」/「昔の実業家」/「フランスの温泉」大谷勇/「東北の温泉に就て」阿部忠一/「新保温泉のことども」森口筆次郎/「武蔵野を歩く」T・Y生/「新潟県で鉱泉税徴収」/「独逸より温泉参考出品勧誘」/「温泉治療学研究所設置」/「温泉座談会小感」与志田男介/「ハイネメデン氏病と依山温泉に就て」藤井弘人/「鷹之巣温泉」KT生/「塩原温泉座談会」T記者/「上越、信越、スキー地めぐり」茂木慎雄/「海洲温泉の唄」松田牧之介/「満洲の三大温泉」満洲支部・長尾新輔/「山陰の温泉郷」土井進一/ほか

● 1932 (昭和7年) 10 月 第 3 卷第 10 号

「温泉と家族乗車券」/「我内務当局者に望む」酒井谷平/「地質学的と工

学的温泉の研究」日下部義太郎/「温泉地の衛生的組織」藤波剛一/「温泉場の旅客誘致に就いて」三輪真吉/漫画「あつてはる勿れ」広瀬しん平/「温泉四題」芳垣青天/「旅館の改善に就いて」高久甚之助/「温泉療法と体質」外山準一/「ゲーテとカルスバート温泉」青木茂沢/「北海道遊覧」森口筆次郎/「大牧温泉」石井頼一郎/「遠刈田温泉の近況など」戸島啓介/「温泉場情景」月森久夫/「温泉往来」/「温泉告知板」/「温泉相談」/「定山渓と附近名勝」/「北陸四湯」伊藤祐一/「温泉療法と体質」外山準一/「豊富温泉」今野金三郎/「水上温泉の浴客吸引」/「東京から近い低山と峠」鉄道省稿/「荒野に咲く花」小杉富士雄/ほか

● 1935 (昭和 10) 年 1 月号 第 6 卷第 1 号

「巻頭言 温泉日本に生れた歓び」丹羽七郎/「血行機障碍と温泉 血液病と温泉」酒井谷平/「鉱泉保護の科学的論拠」片岡調郎/「伊豆国土肥温泉と鉱山の関係に就て」小林儀一郎/「温泉日本の長所を語る」西川義方/「養老の由来と酒の泉(一)」宮坂光次/「温泉が何故効くか 学理と実験が愈々判明した」/「日光湯元温泉俳諧紀行」石垣英造/「新春の温泉場スキー日より」菅沼達太郎/「修善寺温泉所感」加藤玄智/「霜月長夜に温泉劇を観るの記」井手湯好行/「暖風そよ吹く国 南紀温泉風土記」芝野懐風/「丹那開通に因む伊豆温泉風土記」湯村松韻/「ウインタースポーツと衛生上の注意に就て」阿部忠一/「何時の汽車で行つたらいいでせうか 一東京と大阪からの温泉行一」鶴巻光治/「発甫温泉今昔物語」岡不崩/「奥の細道温泉とところどころ 大槻正二/ほか

● 1938 (昭和 13) 年 2 月 第 9 卷第 2 号

「ラチウムの作用と温泉」木村健二郎/「交通機関と温泉」高久甚之助/「分析表より見た温泉機構」田中研一/「温泉療養所を設計して」平山嵩/「温泉の繁昌は医者から」酒井谷平/「乱掘問題一夕話」日下部義太郎/「蓮華浴泉記」野尻抱影/「裸人四景」平山蘆江/「温泉思ひ出るま」生方敏郎/「浴泉悠々」加藤玄智/「新保温泉と木ノ芽峠」牧小路寛/「天然記念物とアイヌ族」甘露寺敬亭/「協会ばなし(温泉展覧会その他)」寺西市郎/「温泉映画を製作して」村尾薫/「別府に萌すもの」堀内省吾/「上諏訪より」青森猿太/「温海昨今」上野貞夫/「最近踏査 南郷谷の温泉群」酒本麟吾/「那須温泉とスキー」菅沼達太郎/「気に入られた温泉土産」古川トキ/「湯旅寸感」R生/「肺門淋巴腺炎」山形中村生/「半身不随」茨城・荒川生/ほか

● 1940 (昭和 15) 年 3 月号 第 11 卷第 3 号

「新時代の温泉旅館建築」平山嵩/「灌漑防止に就いて」本多静六/「有馬の新噴湯」安齋徹/「山東省の温泉」中橋光男/「男鹿半島の温泉」田中館秀三/「本邦温泉の微量成分」木村健二郎/「熱海の二夜」日夏耿之介/「温泉の性格」松原寛/「温泉の印象」飯田蛇笏/「祀られた温泉」植松寿樹/「聞歌泉」白水温/「パブリックルーム」KT生/「噴泉塔」R・S生/「温泉南北」富士雄生/「大陸時代と九州の温泉」岩永勇/「五郷谿の湯」岡村浩村/「下津深江」河野哲信/「南紀湯の峯」天沼五郎/「極楽湯治」安齋桜鏡子/「鹿児島県の隠れた温泉」伊東祐一/「八幡平スキー

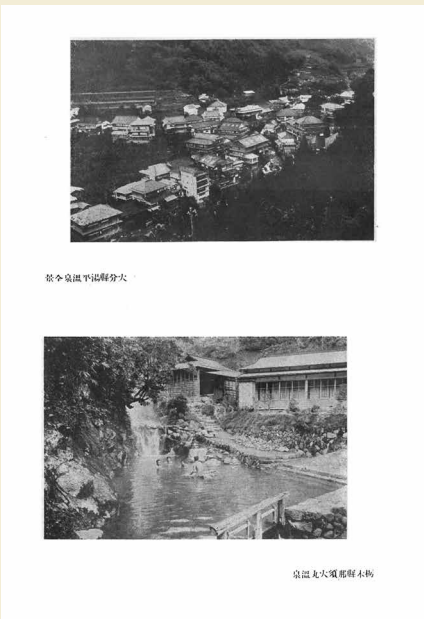
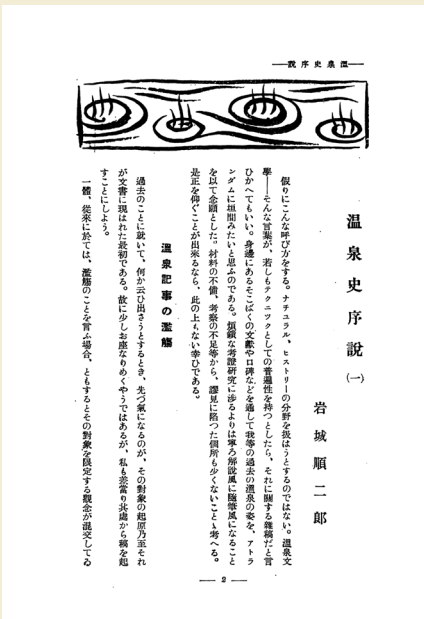
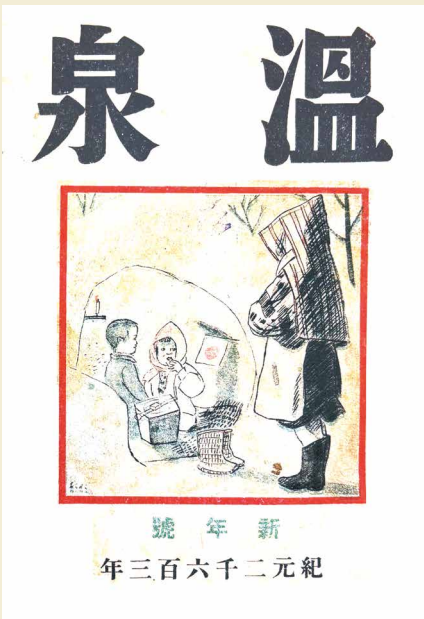
行」深田久弥/「英国鉱泉概観(ストラスベア)」多田栄/「小浜滞留雑記」山辺未抱/「小型泉話」/「美人になる温泉」山里明/「農村インフレと東北の温泉」相馬克夫/「湯宿の朝」大林生/「温泉漫画サロン」芳垣青天/「温泉よみ物」/「漱石と温泉」山本孤舟/「暮末志士と温泉」中谷敏亮/ほか

● 1942 (昭和 17) 年 1 月号 第 13 卷第 1 号

「巻頭言 新年と温泉」R・S生/「温泉古典抄」武田祐吉/「温泉行歌」斎藤潤/「温泉と藝口と」若佐東一郎/「伊豆の峯温泉」鷺尾雨工/「温泉春秋」鹿島台三/「談話室」小杉静夫/「座談会 産業職士の温泉利用を語る」岬岐義等、熊野英、河合良成、渋谷定輔、三浦謙吉、中岡庄三郎、酒井谷平/「第二回温泉療養指導者講習会の記」/「農民の湯治」伊藤永之介/「熱川の風景(絵と文)」小野田元興/「常磐湯本争湯記(七)」酒本麟吾/「子宝五色温泉を訪ねる」亀谷久任/「平穩所見」岡本武生/「遠刈田」神田久/「温泉の景観」辻村太郎/「泉源保護に就て」温泉法研究会/「温泉旅館料理の合理化」桜井省三/ほか

● 1943 (昭和 18) 年 12 月 第 14 卷第 12 号

「戦時下温泉の重点利用」新居格/「戦ふ甲斐の温泉群」中沢喜平/「総合研究欄」/「伊香保温泉総合研究の医学方面研究成績の概要(第一回報告)」三沢敬義/「増富鉱泉のラチウム・エマナチオン(ラドン)含有量に就て」木村健二郎/「南方前線の兵と温泉」井上康文/「鎮静と温泉」懸田克躬/「第四回温泉療養指導者講習会の記」/ほか



● 日本温泉協会の貴重な機関雑誌

日本温泉協会は、温泉関係者や愛好家による研究、提言を掲載する雑誌として、1930年4月に公式誌『温泉』の刊行を開始した。同誌は1943年12月まで刊行されたが、現在ではその多くが散逸している。今回刊行される復刻版『温泉』は日本温泉協会が所蔵する原本を元に、完全な形を再現するものである。

● 温泉にまつわる幅広い記事を掲載

『温泉』が取り上げたテーマは幅広く、各地の温泉の紀行文はもとより、温泉治療の効能などの医学的記事、温泉法、泉源の枯渇といった諸課題、温泉と文学者などの教養的な読み物、また、温泉地の整備や観光利用など温泉の経営に関わる話題も提供していた。そのため、『温泉』を通じて、日本社会が温泉に対して持っていた関心の諸相を探ることができる。

● 温泉専門家による論説や文学者による紀行文を掲載

『温泉』には多様な分野から多数の人物による寄稿がなされた。例えば、温泉医学の権威であった藤浪剛一(医師・慶應義塾大学教授)、温泉についての立法化を提唱した杉山直治郎(法学者・東京帝国大学教授)、日本における「公園の父」と呼ばれた本多静六(林学者・東京帝国大学教授)らの医学者・科学者による論説のほか、日夏耿之介や飯田蛇笏、植松寿樹ら文学者による紀行文も収められている。こうした寄稿者を軸に、温泉文化の多様性を読み解くことができるだろう。

● 主な寄稿者

安齋桜鏡子(俳人)、飯田蛇笏(俳人)、伊藤能矛留(作曲家)、植松寿樹(歌人)、懸田克躬(医学者)、片岡調郎(鉄道官僚)、加藤玄智(宗教学者)、黒川利雄(医学者)、斎藤省三(工学者)、芝野懐風(作家)、島影盟(作家)、島津久基(国文学者)、白鳥省吾(詩人)、菅沼達太郎(登山家)、杉山直治郎(法学者)、高久甚之助(鉄道官僚)、高安慎一(医学者)、武田祐吉(国文学者)、田中館秀三(地質学者)、辻村太郎(地理学者)、新居格(作家)、西川義方(医学者)、野尻抱影(作家・天文学者)、日夏耿之介(詩人)、平山嵩(建築学者)、本多静六(林学者)、三沢敬義(医学者)、村尾薫(鉄道官僚)、山形敏一(医学者)、芳垣青天(漫画家)、鷺尾雨工(作家)、他。